

序

過去、呼吸・循環系障害に対するリハビリテーション教育を振り返ると、この分野にかかる専門職に対し、どの程度熱心に教育されていたかはいささか心許ない現状であり、実務に関しても理学療法学の辺境として細々と行われてきたといって過言ではない現実でもあった。一方、近年理学療法士が対象としている対象疾患の様子を伺うと、内臓障害に起因する疾患、なかでも呼吸・循環系疾患に対する件数が増加していることがここ2～3年の特徴である。

さて、これら呼吸・循環障害がもたらす動作（日常生活）障害に対するゴール設定は、正常な日常生活の再獲得に向けての体力維持および改善といえるが、単なる運動器の障害と違い、常に全身におよぶ疾患として固有のリスクマネージメントが必要とされる。そのため疾患・病態の知識はもちろん、リスクに対する知識もかなり必要とされており、限られた専門職教育年限内で網羅することはかなり困難な作業ともいえる。そのためか、現在この分野について膨大な書籍などが発行されてはいるが、そのほとんどが疾患の診断・治療概念など治療医学の知識やそれに則った治療技術の習得を主旨としており、理論面が若干目立った内容となっている。

本書「呼吸・心臓リハビリテーション」では、疾患ごとに表出するさまざまな病態や障害像に対し、医療現場で直ぐに役立つ療法のコツやリスクマネージメントを随所に盛り込み、効果的な療法を初心者にも理解しやすいように解説した実践的なマニュアルとして出版した。ご存じのように、執筆願った編者は本分野で日本を代表するお二人で、深い臨床実務の経験に加え、現在大学でこの分野の講座もお持ちの先生方である。そのため、本書は若い療法士の方々やこの分野を取り巻く医療現場の専門職向けとして企画したが、それに加え、専門職教育におけるスタンダードな教科書の1つとして十分に値する。呼吸・循環障害の系統だった一連の教育にも、ぜひご利用いただきたい。

2009年4月

居村茂幸